



今回の紙面

- ◆年頭のごあいさつ ◆地域医療最前線 NO. 48 《小林孝文 病院長》
- ◆看護師さんのページ NO. 28 《松浦幸子さん》 ◆研修医のページ NO. 31 《土井遥加 先生》
- ◆島根地域医療を守り育てる住民活動ワークショップ ◆島根県医療情報ネットワーク運用開始

年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療政策課

医師確保対策室長 稲田 勝



新年、あけましておめでとございませす。旧年中は、医療政策課 医師確保対策室に格別なるご支援、ご協力をいただきありがとうございます。本年も変わりがたうございませす。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、島根県では、「しまね地域医療支援センター」を一昨年8月に島根大学と当室内に設置し、若手医師等が、島根県に軸足を置きながら、専門医の資格が取得できるよう、キャリア形成を支援するとともに、ワークライフバランスの推進、県内外からの若手医師の確保などに取り組んできました。

今後、地域枠や奨学金の貸与を受けた若手医師が毎年20人程度増加することから、組織を一本化し、より一層体制を強化するため、大学、医療機関、県医師会、市町村、県を会員とする「一般社団法人」を設立し、平成25年度から業務を開始することにしました。

また、「しまね地域医療支援センター」の事務所は、島根大学が医学部構内に今年の夏の完成を目指して建設中

の「若手医師の育成拠点となる施設」に設ける予定です。この施設には、島根大学の「卒後臨床研修センター」や「初期研修医の居室」等も整備されることから、若手医師等をサポートする体制が一層強化できるものと考えています。

一方、昨年10月に実施した「勤務医師実態調査（対象…全病院と公立診療所）」により、県全体の常勤医師数は805人と前年に比べ10人増加しましたが、地域別では、雲南圏域や大田圏域などで、診療科別では、泌尿器科、整形外科、小児科、産婦人科などで特に医師が不足している状況です。

このように、依然として厳しい状況の中で、各市町村、各医療機関の皆様方におかれましては、地域医療の確保に最大限のご努力を払われておりますことに深く敬意を表します。

県としましても、「しまね地域医療支援センター」での若手医師等への支援や、引き続き県庁の医療政策課内で実施する「赤ひげバンク」「医学生奨学金制度」などにより、一人でも多くの医師に県内で研修・勤務していただけるよう、全力で取り組んでいく所存ですので、皆様方の変わらぬご支援、ご協力の程よろしくお願ひいたします。



島根県立こころの医療センター
病院長 小林 孝文

当院は、前身の島根県立湖陵病院が昭和44年に開院した当初から、精神科救急・急性期治療はもとより、児童・思春期の精神疾患治療、退院促進や地域移行・定着支援、隠岐島の診療支援、医療従事者の研修・教育など、常に先進的な試みを繰り返してきました。



平成20年2月に新築移転し、病院の名称を島根県立こころの医療センターと改称した後も、これまでの歴史・伝統に甘んじることなく、地域に開かれた、質の高い医療を提供することを目標として、診療を行っております。精神疾患が医療計画に記載すべき疾病に追加されたことで、求められる医療機能を明確にし、保健・福祉あるいは一般医療などの分野とも、信頼に基づいた機能分化や連携を推進していくこと

になります。当院でも、精神科救急・急性期治療、児童思春期治療、総合リハビリテーション機能などを核としながら、病院としての総合力をさらに向上させるような体制整備に取り組んでいます。

特に、児童・思春期の心の問題に関しては、社会的要請の大きさに比べ、専門的な診療を行う医師や医療機関などが著しく不足しており、それらの充実が大きな課題となっています。当院では、子どもの心の診療ネットワーク事業（拠点病院を中核として、各二次医療圏の医療機関および保健・福祉・教育関係機関などと連携した支援体制の充実を図る）の拠点病院として、診療機能を強化するとともに、関係機関への支援などを行うことで、重篤・入院加療が必要な場合を除いて各二次医療圏内での対応が可能になるような診療体制、連携体制を構築するための役割を果たしたいと考えています。

精神科の診療では、医師のみではなく関連する多職種（看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、薬剤師、栄養士など）との協働が必要となります。精神科医療をとりまく状況も相変わらず厳しく、医師確保の困難さに代表されるように種々の課題が未解決のまま残されていますが、そのような状況下

でも、当院では、多職種の連携、協働によるチーム医療で幅広い精神科医療に携わっていききたいと考えています。そういったチーム医療を実践することで、医師をはじめとして多くの関連職種の基本的な対応能力の修得、専門的な対応能力の向上が可能になりますので、研修・教育機能もさらに充実させ、地域医療を支えるための人材育成にも積極的に取り組みたいと思います。

看護師さんのページ
NO. 28

隠岐広域連立隠岐島前病院

看護師長 松浦 幸子

新年あけましておめでとうでございます。島根の地域医療がより充実されますことを心よりお祈り申し上げます。隠岐島前病院の取り組みを紹介させていただきます。

隠岐島前病院は3つの島（西ノ島、中ノ島、知夫里島）人口6千人の中核医療機関としての役割を担い、離島医療、地域医療を展開しています。

看護師を含む医療スタッフ不足という問題に対して、看護師ブログ等で情報発信することで、集まってきたスタッフを支えられています。まだまだ

改善しているとは言えない現状があります。

そんな中

ですが、離島医療、地域医療を充実させるために、研修医による院内ミニ勉強会と研修医報告会を開



催しています。H24年度は隠岐島前病院には研修医が1か月交代で16人来られます。島に来て1週間経った頃に、ミニ勉強会（15〜30分程度）を開きます。内容は「研修医の得意分野」または「看護師が知っていたらためになること」「看護師から教えてほしいこと」です。研修医はこのミニ勉強会の準備のために勉強されますし、プレゼンの勉強にもなるようです。看護師たちは、日々の業務が忙しくても30分以内なら参加しやすく、最新の知識を習得することができます。またこれを機会にスタッフとのコミュニケーションが良好となり、研修医の1か月間も充実していきます。そして研修最後の4週目のところで研修医報告会を開きます。1か月の感想を発表していただき

ますが、この時は地域の人たちにも参加していただいています。病院ボランティア、老人会、行政、保健、福祉等の方々に参加されます。研修医と地域住民、病院と地域住民の交流が図れるなど良い効果を得ることができています。研修医からは「地域医療の魅力を感じる事ができた」といった報告を受け、大変うれしく思うとともに、明日につながることを期待しています。

また看護部

では「離島医療看護研修プログラム」を企画しています。1年コースまたは2年



コースで離島医療、地域医療の魅力を体験してもらおうというものです。離島という高いハードルが少しでも緩和され、看護の原点に触れ、やりがいを感じていただけること、患者さんの幸せにつながる医療の実践者になること、そして自ら地域医療の魅力を語れること、そんな医療者を一人でも多く増やすことができます。島根の医療に一丸となって取り組めることを願ひ、頑張りたいと思います。皆様、これからもどうかよろしくお願ひ申し上げます。

松江生協病院

1年目研修医 土井 遙加

研修を始め



て10か月、忙しくも、やりがいのある臨床現場で、患者さんに笑顔と優しさをお届けできるよう日々奮闘しています。

私は、小・中・高を松江で過ごし、昨年島根大学を卒業しました。そして、高校時代に医師を目指すきっかけとなる実習をさせていただいた当院で2年間の初期研修をスタートしました。

毎日の診療では、上級医の先生方の指導のもと、病棟患者さんの主治医として病気の診断・検査の仕方や治療方針の考え方について学んでいます。また、地域に向いて肺炎予防について講演したり、趣味であるフルートの演奏を通して、患者さんと音楽で交流する機会もあり、病気を診るだけでなく、心を癒し、生活を支える医療を実践する研修生活を送っています。医師としての経験はまだまだ未熟ですが、今、自分にとって精一杯のことができるよう

心がけています。具体的には、「患者さんに真摯に向かい合う姿勢」をいつも心に留めるようにしています。この姿勢について、病棟での経験を交えてお伝えしたいと思います。

感染症で入院された70代のAさんとお話ししていたときのことです。Aさんは、毎朝、診察に行く。「まあ、朝早くから来てくれてありがとうね。先生に診察してもらえると安心するわ。」と言ってくれ、聴くこと、診ること自体が、心を癒すことにつながるんだと感じました。Aさんは心血管系の合併症があり、いろいろな検査をさせていただきました。入院が長引き、申し訳ないと思っていました。退院前には「いい先生でよかった。」と言ってもらえ、とても嬉しかったです。たとえ拙い部分があっても、一生懸命、検査の説明をし、治療について伝えることで、入院中の心細さを少しでも軽くすることができて



地域での講演の様相

よかったですと思いました。

このように、悩みあり、感動ありの患者さんとの関わりの中で学んだ皆さんのことを心の診療録に書き留めています。多くの温かなスタッフの方に支えていただき、のびのびと研修をさせてもらえることに心から感謝しています。この記事を通して、1人でも多くの方に、生まれ育った土地で医師として働くことの素晴らしさを感じてもらえれば嬉しいです。それでは今日も、ほのぼのとした診察を楽しみに病棟に行ってきます！

島根地域医療を守り育てる 住民活動ワークショップ

10月20日(土)に出雲市内で「島根地域医療を守り育てる住民活動」ワークショップ・連絡会を開催しました。

このワークショップ・連絡会は、県内各地で地域医療を守り育てる活動を行っている住民団体、病院関係者及び行政機関を対象に、それぞれの地域で抱える課題等を議論する場として、昨年度から実施しています。

当日は、はじめに県外の先進事例として、「宮崎県北の医療を守る会」福田政憲事務局長の基調講演があり、宮崎県の地域医療の現状から「延岡市の地

域医療を守る条例」制定に至るまでの経緯、現在の活動などについてお話しされました。実例を交えた分かりやすい講演であり、大いに参考となる内容でした。

次に、県内の先進事例として、雲南地域の「がんばれ雲南病院市民の会」と益田地域の「益田の医療を守る市民の会」の2団体から活動紹介がありました。

最後のグループディスカッションでは、今後実践していきたい活動として、住民団体からは、先進事例にもあった住民が病院職員への感謝を伝える「ありがとうノート」を始めたいといった声、病院関係者からは、病院から公民館などに出向く活動を行っていきたくといった声聞かれました。

最後に、島根大学医学部地域医療支援学講座の谷口栄作教授から「地域医療は医療者だけでなく、いろんな人がいっしょになって作っている。一人ひとりが地



域の医療のために自分に何ができるのか考え、実行し、継続していくことが大事である。」との総評がありました。今年度は、参加団体、参加者数（総勢48団体、80名余り）とも前年度を大幅に上回り、県内各地での地域医療を守り育てる機運の高まりを感じました。

【医療政策課 河野】

島根県医療情報ネットワーク
（まめネット）運用開始

島根県では、県内の病院や診療所、行政（保健所）などの医療関係機関をつなぐ『島根県医療情報ネットワーク（通称…しまね医療情報ネットワーク）』、愛称『まめネット』（※）を平成25年1月から稼働させます。

『まめネット』は、国のガイドラインに準拠した高いセキュリティに守られたネットワークで、医療関係者のみで利用可能なネットワークです。

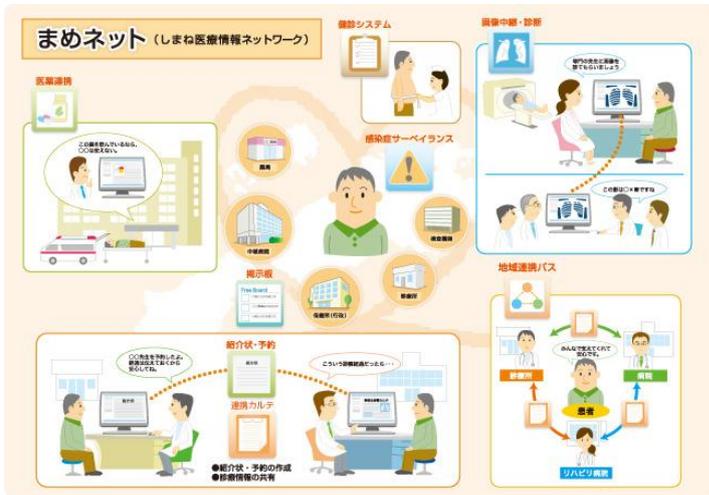
『まめネット』では、患者さんの同意の下で、電子カルテを導入している参加医療機関から情報提供される診療情報を一括して表示できる診療情報共有システム（「連携カルテサービス」）や医療機関が診療や検査の予約枠を設定している場合に他の医療機関から予約

できるシステム、CTやMRIなどの画像情報の送受信のためのシステム（「画像中継サービス」）、指定した利用者間のみで電子ファイルを共有して地域連携パスなどを利用できるシステムなど医療連携を促進するためのシステムを運用します。



『まめネット』の構築にあたっては、島根県地域医療支援会議医療IT専門部会を立ち上げ、県内の中核医療機関や医療関係団体などの代表として20名の方に委員にご就任いただき、ネットワーク整備等についてご意見、ご検討をいただきながら、その検討を踏まえて、ネットワークの整備・運営を医療関係者が中心に設立されたNPO法人しまね医療情報ネットワーク協会で行っています。

今後とも、『まめネット』が県内の医療連携のためのツールとして関係者の皆様にご利用いただくとともに、よりよいツールとして発展していくよう整備・運営主体と連携して取り組んでまいります。



「ご意見などございましたら、県医療政策課やNPO法人までご意見をお聞かせいただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。」

※愛称の『まめネット』は、公募により、浜田市在住の小学生からの応募名に決定。島根県の方言で「まめ（元気）」から「みんなが元気（まめ）」になってほしい」という思いで命名されました。

【医療政策課 林原】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室
TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040
E-Mail iryout@pref.shimane.lg.jp
ホームページ：[島根の医師確保対策](#)

